

広島市教育センター所報

No. 3
昭和55年2月

広島市教育センター
広島市牛田新町一丁目17番1号
〒730 電話(0822)23-3563

国語教育充実のために —万葉旅行の勧め—

広島市立矢野中学校長 登里 良太郎

万葉旅行の楽しみは回を重ねるごとに深まってくるから不思議である。多くの先生方もそのだご味を味わっていらっしゃるはずだが、ここでは歴史や風土の上から香具山の、古代信仰の上から磐代の二、三首を中心に述べてみたい。

春過ぎて夏来るらし白栲の衣乾したり天の香具山 持統天皇（巻1-28）

この歌の実感はおもとの鴨公小学校の大極殿址に立って大和三山の一つの香具山を眺めた時に初めて味わうことができようか。当時は藤原宮と香具山の間には埴安の池の青い水があった。壬申の乱を経て天武、持統は飛鳥に22年、持統は藤原宮に移り2年半後に孫の文武に位を譲って太上天皇となる（太上天皇の始め）。梅原猛氏はこれを古事記の成立（天孫降臨）に藤原不比等の影響があるという。藤原宮は南北2.6キロ、東西1.7キロの広さで、人口は3~4万？だったろうと推定されているが、こうした都の景観を頭において鑑賞したら天皇の権威の著しく高まった時代の支配者の現実感に迫ることができるかも知れない。香具山の山容はやわらかいふたがみをなしており古くから由緒深い山。神武はこの山の土で土器を作り祭ることによって大和の支配をしえた。また香具山は天から降ってきた山だと信ぜられ、山上で祭祀が行われ、鹿の骨を焼いてトをした神聖な山である。夏といえば古くは禊ぎを連想したらしい。田植えの前には村の処女は五月処女（さおとめ）の資格をえる

ために山遊び、野遊びをした。栲はこうぞの繊維で作った織物で洗うほど白くなり、ここでは斎服である。処女たちが山ごもりしている香具山は大極殿から指呼の間にある。一方、人麿は香具山で人の屍を見て 草枕旅の宿に誰が夫か国忘れたる家待たまくに（巻3 426）と歌う。

磐代の浜松が枝を引き結び真幸くあらばまた還り見む（巻2-141）

家があれば筥に盛る飯を草枕旅にしあれば椎の葉に盛る（巻2-142）

有馬皇子の磐代での作。彼は中大兄と不和であった孝徳の唯一の遺子で中大兄や赤兄の謀略にかかり紀の湯に送られ、帰途藤白で殺される。草を結び、松が枝を結ぶ鎮魂の習俗は遊離する魂を草木の霊力によって結びとめ生命の長久を祈り、磐代の地霊に祈るのである。鎮魂という語は折口信夫が言い出したのであろうが、魂を附着させる（たまふり）が古い意味で、自分の体にある魂を外部に遊離させないように、じっと鎮めておく（たましずめ）という意味になる。昔の人はそう信じていたらしい。

万葉旅行は楽しい。しかもそれが国語教育（授業）の充実に通じるとすれば、こんなに嬉しいことはない。政令都市を迎える広島市の教育センターがいよいよ充実し私たちを招いてるように、万葉人の歴史や風土が私たちを飛鳥へ吉野へ紀伊へ……とかりたててくれる。この二つの声が重なって聞こえる。

学校教育と家庭教育と社会教育との連携について

子供の生活の場は、学校と家庭と社会である。今日、この三つの場で行われる教育が、それぞれの機能と役割を分担しながら、相互補完的に協力連携する必要が強調されている。

この三つの場で行われる教育の協力連携は、教育の一貫性を実現する具体的な取り組みの積み重ねによって前進する。やや困難かつ複雑な仕事であるとしても、三つの場それぞれの典型的な特徴を明確にするとともに、それぞれの役割分担のもとでの相互補完的な協力連携関係をうち立てていかなければならない。

学校には、学校であるからこそ可能であり、効果的に実現しうる教育機能がある。あらかじめ決められたきまりや時間割に従い、仲間とともに学習活動を行っている。公的な社会規範や普遍的な論理を知的に学習し、それを尊重する態度や習慣を形成することは、学校でこそ行いうる教育である。しかし、学校では、意図的、方法的に教育され、しかも、よりよい教育機能を果たすために、計画的、系統的、分化的に学習内容が組織され、学習活動が展開される。

したがって、いろいろな年齢層の人と集団を形成したり、多様な個人的要求に柔軟に対応したり、また自分の考えや責任で社会とかわったり、学習したことを行動によって確認したり、さらに自然の中で心身を鍛えたりするといった形態や、実態的、実用的な学習内容の教育にはおのずと制約がある。こうした教育は、社会教育に参加することによって行いうるものである。

そのような学校や社会での生活は、少数の家族との情意的関係のもとで、親の配慮を一身に集め、したいことがいつでもできる家庭での生活とは、全く異質的である。家庭は、出生とともに、自然的、全人格的に結びついており、全生活の拠点となっている。それだけに家庭教育

の機能は未分化であるが、全体的であり、人間としての基礎的な生活習慣、行動様式や基本的な愛情の充足などに関する教育は、家庭でこそなしうるものである。

このように学校教育、社会教育、家庭教育は、それぞれに特徴を持っている。学校では不完全で不可能な教育活動があるし、また学校でこそ可能で効果的に果たしうる教育機能がある。同様に、社会教育や家庭教育こそが可能かつ効果的な教育活動もあるのである。それぞれの特徴や様態に対応した機能や役割分担に基づく学校教育、家庭教育、社会教育について考えるとき、それぞれの接点や境界を検討し、適切な位置づけを図っていかなければならない。

学校が、知的かつ抽象性の高い教育内容にかかわる教育機関だとしても、情操的、徳育的な教育をしていく必要があるし、家庭が、完全な信頼と全人格的な愛情に基づく教育で、基本的な生活習慣や行動様式などを育成する場であるといっても、普遍的なきまりや論理にかかわる徳性の教育も行わなければならない。社会性の基盤である連帯、協同、奉仕、信頼などの徳性は、まず家庭生活においてこそ、自然のうちに実践され、実現されるものである。

留意すべきことは、学校教育、家庭教育、社会教育の三者が、ひとりひとりの子供の教育のために、一貫した理念や原理、さらには共通の目標を持つということである。例えば、自主性と創造性のある子供を育てるという目標は、家庭、学校、社会の共通の目標でありうる。

子供の発達段階に応じて、家庭と学校と社会が、それぞれの分野における教育機能の相互補完を図るための協力連携を進め、生涯をとおして豊かな人間性を育成していける場を作り上げていくことが大切である。

学習指導を成り立たせているもの

学習指導という教育活動は、生きた人間が人間を対象として行う実践であるだけに微妙かつ複雑である。そして、この営みは、児童生徒の力を最大限に引き出し、育てるものである。今日、教育は、諸科学との密接な関連のなかで発展し、その研究も、さまざまな分野の協力さえ必要とする。教育は、ますますもって広がり、深い奥ゆきをもった営みとなってきた。

学習指導は、その総体を、できる限り多面的かつ統一的に把握しなければならない。実際に学習指導は、教師の一定の計画に基づいて、その一環として行われる。これについて考察をするとき、いくつかの過程及び構成要素に分節化できる。学習指導にはたらく諸要因を分析し、よりすぐれた学習指導が成立するための基本的条件を明らかにすることをめざすのであれば、学習指導のなかで直接に生起する現象を観察し、分析すると同時に、それらの現象を根底において規定する諸要因にも注目し、それらの相互関連を明らかにすることが必要である。

しかし、学習指導は、いわゆる授業の前から始まっており、そのあとも続いている。

例えば、一時間を単位としている学習指導についても、教師の教育観・児童生徒観・教材観、学習環境の作り方、学習のねらいを持たせ学習意欲を起こさせる動機づけ、学習態度の育成、児童生徒の特性の生かし方、学習における個人差への対応、教科の好き嫌いをする者の導き方、発問のしかた、児童生徒の答えの生かし方、板書のしかた、ノートのととり方や使い方、指名のしかた、机間巡視のしかた、児童生徒の励まし方、助言や指示、学習形態の選択、導入・展開・終結のしかたと心得、教科書の扱い方、資料の準備と使い方、学習の手引きや練習問題の扱い方、教材教具の選び方と使い方、地図・掛図

年表等の使い方、教育機器の活用、評価のしかたと生かし方、学習指導過程における児童生徒の掌握、学習指導におけるカウンセリング、その他が複雑微妙に関連し、関連し合うことによってより高い機能を発揮しながら展開されている。

教師が、学習指導について思いをめぐらすとき、細かい段階や要素及び基本的条件等を数多く思い浮かべる。それらを目標の実現に向けて、児童生徒の発達に応じて設計し、学習指導として成立させているのである。

学習指導には、言挙げできない部分がきわめて多い。要素的に一つ一つの項目を立てて詳細に検討しても、それなりに学習指導という凝縮した営みの大切な鍵であることを知るにすぎない場合もある。だが、それゆえにこそ、要素要因の項目とその前後左右、ならびに基盤と発展への配慮怠りなく、全体を結合し、関連させて、生きた教育活動としての学習指導の全体像を、ひとりひとりの教師が、わがものとして探究し、実践しなければならない。児童生徒が、学習に積極的に取り組み、生き生きと追究的に活動してこそ、真の学習指導の展開がなされているというべきである。

学習指導は、連続的なサイクルをなしていて、完了するということがない。一つの段階が終わるとき、新しい目標、新しい方法へと発展的に変化していき、その学習指導に修正を加える測定、評価、考察が行われ、さらに次のサイクルへと連続していく。この連続するサイクルが、各教科の内容や方法との有機的な関連で連動していることが大切である。

ひとりひとりの児童生徒に、ほんものの学習指導に取り組みさせるためには、学習指導を追究する姿勢をくずすことはできない。

蔵書紹介(3)〔学校経営・管理, 学校保健(抄)〕

◆学校経営・管理◆

学校経営の現代化 持田栄一ほか編 明治図書
 学校教育の現代化 金子孫市著 学陽書房
 学校経営現代化の方法 高野桂一著 明治図書
 学校経営をめぐる論点

伊藤和衛ほか著 文教書院

現代の学校経営 吉本二郎ほか著 高陵社書店
 学校の現代化シリーズ 全5巻 東洋館出版社
 現代学校経営講座 全5巻 第一法規
 小学校学校経営の研究と実践

松村 謙ほか著 葵書房

中学校学校経営の研究と実践

福島恒春編著 葵書房

日本の学校教育目標 上滝孝治郎編 ぎょうせい
 現代教育目標事典 奥田真丈ほか著 ぎょうせい
 学校行事の特質と展開 青木孝頼編 明治図書
 学校行事の基礎と応用50章

室町公宏著 第一法規

これからの学校行事の進めかた

磯貝 敬著 葵書房

学校経営の課題と解明 全3巻 教育出版
 学校経営と教頭の役割 牧 昌見著 ぎょうせい
 校務分掌の組織と運営(小学校編)

宇留田敬一ほか編 明治図書

学級経営事典 全6巻 小学館

教師必携実践資料 全8巻 日本文化科学社

学級経営の科学 杉山正一ほか著 ぎょうせい

講座 学級経営 全4巻 明治図書

小学校学級経営事典 小学館

中学校学級経営事典 小学館

◆学校保健◆

養護教諭執務ハンドブック 第一法規

新学校保健法の解説 渋谷敬三著 第一法規

新学校保健実務必携〔改訂版〕

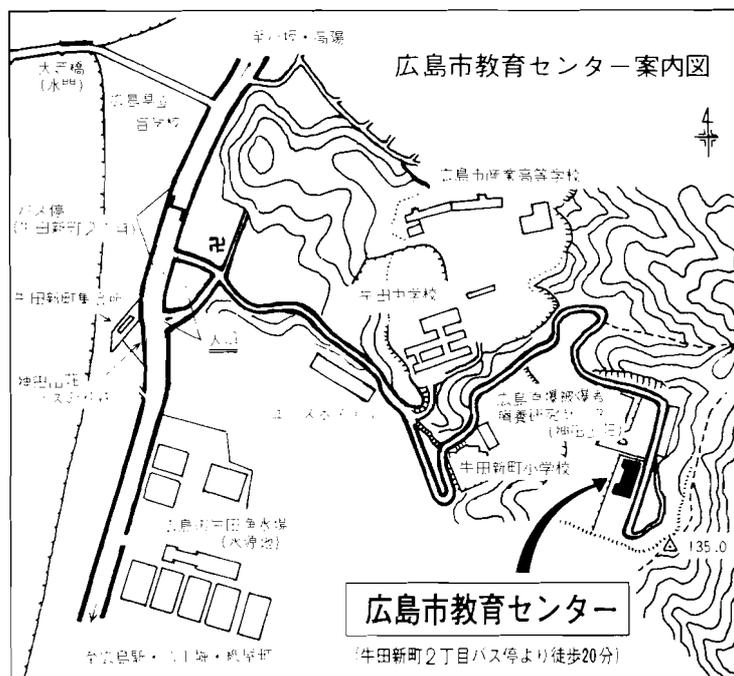
渋谷敬三ほか著 第一法規

学校保健 川畑愛義著 南江堂

養護教諭の保健指導 国崎 弘ほか著 第一法規

学校保健の法律常識 江口篤寿著 第一法規

案内図



交通機関

1. バス

下記のバスを利用される場合は、いずれも牛田新町2丁目下車してください。

(1) バスセンターから
 三兵衛橋経由 中深川、高陽A団地又はB団地行
 〈広島交通、国鉄バス、広島バス〉

(2) 広島駅から 〈広島駅前(ダイエー西) 可部、中深川、高陽A団地、高陽B団地又は千足行〉
 〈広島交通、国鉄バス〉

(3) 八丁堀から 〈八丁堀バス停〉
 千坂行(千坂～仁保線)
 〈広島電鉄〉

※左の案内図の「神田山荘バスのりば」から神田山荘マイクロバスがありますので空席があればご利用ください。
2. 自家用車

駐車場はあります。

なお、途中見通しのよくない箇所があり、その上通学路にもなっていますので、交通安全に気をつけてください。